

令和 6 年度

事 業 報 告 書

自令和 6 年 4 月 1 日 至令和 7 年 3 月 31 日

公益財団法人 中近東文化センター

## 令和6年度事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

### 1. 組織運営

#### (1) 理事会・評議員会開催状況

下記会議を開催、各議案を採択、審議の上、承認を得た。

##### ① 令和6年5月29日 第1回理事会 (WEB会議)

- 【議案】 ア. 令和5年度事業報告及び決算承認の件  
イ. 理事の任期満了に伴う再任の件  
ウ. 評議員会の招集について(定款第18号)  
エ. 理事長及び業務執行理事報告(定款第24号)

##### ② 令和6年6月19日 第1回評議員会 (於：当法人会議室)

- 【議案】 ア. 令和5年度事業報告及び決算承認の件  
イ. 評議員の辞任と選任の件  
ウ. 評議員任期満了に伴う再任の件  
エ. 理事任期満了に伴う再任の件  
オ. 報告事項 法人の運営状況について  
カ. 議事録署名人の選任

##### ③ 令和7年2月10日 第2回理事会 (WEB会議)

- 【議案】 ア. 令和7年度事業計画承認の件  
イ. 令和7年度収支計画承認の件  
ウ. 理事長及び業務執行理事報告(定款第24条)  
エ. 評議員会の招集について(定款第18条)

##### ④ 令和7年3月5日 第2回評議員会 (於：当法人会議室)

- 【議案】 ア. 令和7年度事業計画承認の件  
イ. 令和7年度収支計画承認の件  
ウ. 法人の運営状況報告  
エ. 議事録署名人の選任

#### (2) 主要寄付金・助成金の受け入れ

令和6年度の各事業は、下記法人及び自治体の助成金等により、実施した。

- ① 公益財団法人 JKA (下記2 (1) ①～②及び④に充当)  
② 公益財団法人 出光美術館 (下記2. (1) ①に充当)

- ③ 公益財団法人 住友財団（下記 2（1）①②に充当）
- ④ 独立行政法人 日本学術振興会（下記 2（1）③に充当）
- ⑤ 千葉工業大学（下記 2（1）①③に充当）
- ⑥ 三鷹市（下記 2（2）①イ、（5）①に充当）
- ⑦ 武蔵野文化生涯学習事業団（下記 2（2）①イ、②アに充当）

## 2. 事業活動

中近東文化に関する調査研究、知識普及、資料収集・保管・展示・提供

### （1）中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所

#### ① 第 37 次カマン・カレホユック発掘調査(令和 6 年)

（大村幸弘アナトリア考古学研究所所長）

第 37 次カマン・カレホユック発掘調査は、7 月初旬から 9 月初旬にかけて、北区、南区の 2 発掘区で行った。北区では、「文化編年の構築」を主目的とし、前 3 千年紀第三、四四半期の前期青銅器時代の文化層、また、南区では、中期鉄器時代、ヒッタイト帝国時代の大規模建築遺構の調査を行った。北区では、火災を受けていない建築遺構を調査、同層から鉄関連資料を確認した。この調査は出光美術館、JKA、住友財団、千葉工業大学の助成を得て実施した。

#### ② 第 15 次ヤッスホユック遺跡発掘調査(令和 6 年)

（大村正子アナトリア考古学研究所研究員）

第 15 次ヤッスホユック発掘調査は、9 月初旬から 11 月初旬にかけて遺丘頂上部で行なった。ここ数年の調査で、ヤッスホユックの前期青銅器時代の第三、四四半期には 2 つの大火災が確認され、その大火災層には建築設計図に基づいて築かれたと思われる大遺構が確認された。さらにこの二つの火災に挟まれている、火災を受けていない二つの建築層が検出され、当該年度の調査では紀元前 3 千年紀後半の重層する都市の存在とその変遷の解明に向けて大きく前進した。この調査は J K A、住友財団、文化財保護・芸術研究助成財団の助成を得て実施した。

#### ③ 第 15 次ビュクリュカレ発掘調査(令和 6 年)

（松村公仁アナトリア考古学研究所研究員）

第 15 次ビュクリュカレ発掘調査は、4 月下旬から 7 月初旬にかけて、ヒッタイト帝国時代に関連する建築遺構の発掘調査を行った。帝国時代の建築は鉄器時代の建物が建造される際にかなりの部分が取り外されていることが明らかとなっており、鉄器時代の城塞の

取り外しと同時に城塞の外の部分の発掘を行った結果、粘土板文書を確認。その解読によりヒッタイト帝国とエジプト王国の関わりの一部が明らかになった。この調査は日本学術振興会科学研究費補助金、千葉工業大学の助成を得て実施した。

④ トルコ発掘調査報告会（2024 年）第 31 回トルコ調査研究会

（大村幸弘アナトリア考古学研究所所長）

2024 年に行った第 37 次カマン・カレホユック発掘調査、第 15 次ヤッスホユック発掘調査、第 15 次ビュクリュカレ発掘調査、第 31 回トルコ調査研究会を、2025 年 3 月 9 日、10 日の二日間にわたり東京国立博物館平成館大講堂で JKA の助成により実施した。

⑤ アナトリア学勉強会 （大村幸弘アナトリア考古学研究所所長）

トルコにおける発掘調査、研究を行う上で、若手研究者の養成を目的としてアナトリア学勉強会は、令和 6 年 7 月～令和 7 年 3 月までの 8 回、オンライン、ハイブリット、対面形式で行った。

第 286 回 2024 年 7 月 6 日【zoom 配信】松村公仁

第 287 回 2024 年 8 月 17 日【zoom 配信】大村幸弘

第 288 回 2024 年 10 月 4 日【対面】

山藤正敏（国立文化財機構奈良文化財研究所・主任研究員）

第 289 回 2024 年 11 月 30 日【zoom 配信】

松村公仁・大村幸弘・大村正子

第 290 回 2024 年 12 月 15 日【対面】

森田航（国立科学博物館人類研究部・研究員）

第 291 回 2025 年 1 月 10 日【対面】

下釜和也（千葉工業大学地球学研究センター・研究員）

第 292 回 2025 年 2 月 7 日【対面】

多田隆治（千葉工業大学地球学研究センター・主席研究員）

多田賢弘（同上・研究員）

第 293 回 2025 年 3 月 29 日【対面】

永田和宏（東京工業大学・名誉教授）

⑥ フィールドコース（2024 年）

（大村正子アナトリア考古学研究所研究員）

日本、欧米、トルコの学生を対象として、7 月中旬から 8 月中旬にかけて考古学、植物考古学、形質人類学、博物館額のフィールドコースをアナトリア考古学研究所で行った。

形質人類学 2024 年 7 月 15 日～7 月 19 日

植物考古学 2024 年 7 月 21 日～7 月 26 日

考古学 2024年8月12日～8月24日

博物館学 2024年5月20日～24日／10月7日～10月11日

⑦ 収蔵庫修理と出土遺物整理

(大村正子アナトリア考古学研究所研究員)

旧収蔵庫修復作業が完了。これまでカマン・カレホユックから1985年～1996年に出土した遺物整理を行った。

(2) 中近東文化センター附属博物館

① 展示活動

一般来館の他、団体客の受入れを行うとともに武蔵野市、三鷹市の特別開館を実施した。武蔵野市の夏の特別開館は8月19日～25日、三鷹市の秋の特別開館は10月16日～20日まで開催し、多数の市民が来館された。

開館日合計：154日

② 公開講座親子体験講座

武蔵野市とタイアップし地元小学生向けに親子で参加するイベント、博物館展示品のスケッチと粘土の焼き物絵付けを行う「古代オリエント探求—粘土で作ろう！中近東の宝物—」を夏休み期間の7月26日、27日の2日間実施、抽選により20組43名の親子が参加した。

③ 収蔵品の管理

昨年完了した地下3階の収蔵庫の棚卸しに基づき、収蔵品の整理整頓を実施した。

(基本財産 登録件数1, 128件 所蔵件数2, 297点)

(3) 三笠宮記念図書館

本年度も、閲覧希望者に対し便宜を図り図書館の開館をした。

開館日合計：145日

(4) 地元自治体との連携事業

① 三鷹市

三鷹市民向けの秋の特別開館(10月18日～22日)に併せ、期間中に本年度はクラシックのミュージアムコンサートを実施、博物館見学を含め市への多数の応募により抽選で来館された市民の方に好評を博した。

演奏者 藍原ゆき&佐野篤

「ヴィオラ・ダ・ガンバとフィドルの Duo」

② 武蔵野市

上述の通り、夏季の特別開館、親子体験講座を実施した。

(5) 広報活動

対談講座の開催

広報活動の一環としてオンラインと対面のハイブリットで下記対談講座を実施した。(対談者 大村理事長 以下講師)

2024 年 6 月 24 日 石田友雄 (筑波大学名誉教授)

「三笠宮崇仁殿下の御功績を語る」

2024 年 9 月 27 日 松本 健 (国士舘大学名誉教授)

「メソポタミア地域の考古学、発掘と今後の展望」

2024 年 12 月 17 日 菊池徹夫 (早稲田大学・名誉教授)

「中近東における遺跡発掘調査について」

2025 年 2 月 14 日 近藤二郎 (早稲田大学名誉教授)

「エジプトにおける発掘調査と今後の展望」

3. その他の事業

(1) 物品の販売 (収益事業)

博物館でのカタログ、ミュージアムグッズ等の物品販売及び、ホームページによる通信販売を継続して行った。

以上